胃がん検診（胃内視鏡検診）実施機関の精度管理調査

資料８

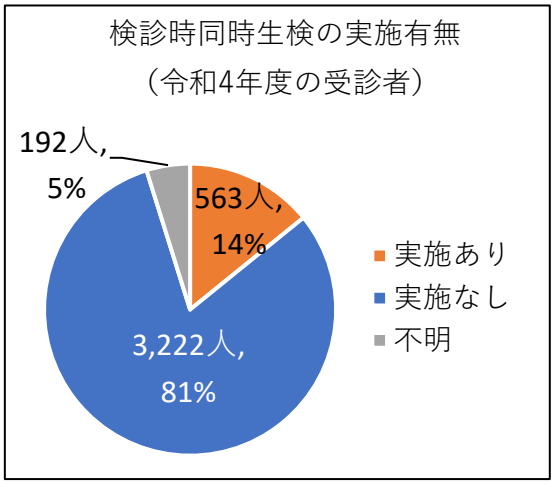
奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課

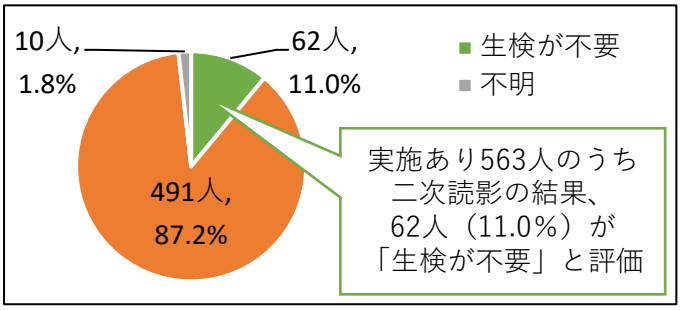
調査概要

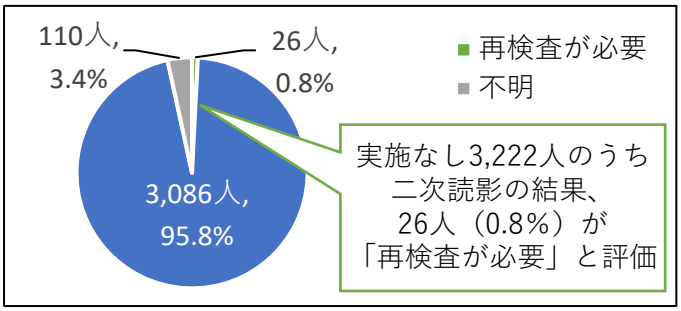
・胃がん（内視鏡）の要精検率・陽性反応適中度・がん発見率には基準値の設定がないが、生検率は10%以下＊が望ましいとされている。（＊対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル2015年度版より）
・各指標について全国比較すると、奈良県は要精検率14.9%（全国7.2%）、陽性反応適中度4.4%（全国5.0%）、がん発見率0.66%（全国0.36%）であり、要精検率が全国で一番高いことが課題である。
・そこで、令和6年度に胃がん検診（胃内視鏡検診）を実施している医療機関を対象とし、同時生検の実施状況、事業評価のためのチェックリスト（検診機関用）の遵守状況、検診従事者について調査を実施した。

【対象】令和６年度に県内市町村から胃がん検診（胃内視鏡検診）を受託している77施設
【回答数】60施設（回収率77.9%）

①同時生検の実施状況







【「生検が不要」または「再検査が必要」と評価された施設】（17施設）

施設名	受診者数	実施数	不要	未実施数	再検査が必要
A	100	10	4	90	2
B	48	2	0	46	1
C	49	4	3	45	1
D	62	4	0	58	2
E	78	3	0	75	4
F	115	4	1	111	0
G	181	62	1	119	2
H	192	52	15	140	2
I	29	5	3	24	0
J	288	74	10	214	1
K	221	30	3	191	0
L	41	3	0	38	1
M	48	14	2	34	2
N	59	0	0	59	1
O	102	15	0	87	1
P	69	25	20	44	0
Q	43	0	0	43	6

【同時生検実施率が10%以上の施設の生検評価】（24施設）

施設名	実施率	実施数	不要	施設名	実施率	実施数	不要
A	10.0%	10	4	M	22.1%	15	0
B	10.1%	7	0	N	22.6%	7	0
C	11.1%	1	0	O	23.1%	3	0
D	13.1%	8	0	P	23.4%	33	0
E	13.3%	6	0	Q	25.7%	74	10
F	13.6%	30	3	R	27.1%	52	15
G	14.4%	24	0	S	27.3%	9	0
H	14.7%	15	0	T	29.2%	14	2
I	17.1%	7	0	U	34.3%	62	1
J	17.1%	6	0	V	36.2%	25	20
K	17.2%	5	3	W	44.4%	4	0
L	18.0%	33	0	X	81.7%	49	0

→生検が不要と評価された62件のうち、58件（93.5%）は同時生検実施率が10%以上の施設の結果

③事業評価のためのチェックリスト（検診機関用）の遵守状況（実施率90%未満の項目）

【1. 対象者への説明】
- 対象者に対し、検診の有効性と不利益を説明した（88.1%）
- 胃がんががん死亡の上位に位置することを説明した（81.4%）

【3. 問診、胃内視鏡検査の精度管理】
- 読影委員会のメンバーが、日本消化器がん検診学会認定医もしくは総合認定医、日本消化器内視鏡学会専門医のいずれかの資格を取得していた（88.1%）

【4. システムとしての精度管理】
- 精検方法や精検（治療）結果について、市町村から医師会から求められた項目の積極的な把握に努めた（86.4%）
- 撮影や読影向上のための検討会や委員会を設置、もしくは参加した（71.2%）
- 自施設のプロセス指標値を把握した（72.9%）
- 自施設の精度管理状況を把握し、改善に向けた検討を行った（76.3%）

④検診従事者

すべての施設において、日本消化器内視鏡学会専門医もしくは医師会等が二次読影を行う体制があるが、一部の施設では、日本消化器内視鏡学会専門医の資格を有していない医師が二次読影を行う場合がある

【≪施設名≫】

【別紙1】

令和4年度に奈良県内市町村より受託し、実施した検診の結果について記入してください。

（令和4年度に検診を受託してない場合、別紙1は回答不要です。別紙2・3にお進みください。）

（1） 令和4年度の検診結果について

※人数をご記入ください。記入できない場合は未把握となり、「未」を記入してください。

※50 歳以上の受診者について記入してください。

※別添「ご記入にあたっての注意事項」をご参照ください。

質問① ： 令和4年度の受診者数は何人ですか		人
質問② ： 受診者のうち検診時に生検を実施したのは何人ですか		人
質問②−1 ： ②のうち、二次読影の結果「生検が不要」と判定されたのは何人ですか		人
質問③ ： ①の受診者のうち、検診時に生検を実施していないのは何人ですか		人
質問③−1 ： ③のうち、二次読影の結果「再検査が必要」と判定されたのは何人ですか		人

（2） 令和4年度受託市町村について

当課が把握している、貴施設と契約した市町村名について記載しています。

≪令和4年度受託市町村≫

□ 上記市町村に変更はない

□ 上記市町村に変更がある （変更内容 ： ）

（別添）

ご記入にあたっての注意事項

〇以下は、奈良県胃がん検診（胃内視鏡検診）実施要領で示している令和4年度検診時の胃がん検診（胃内視鏡検診）検診票（兼）結果票です。

〇市町村によって様式名や内容が異なる場合があります。

〇質問②③については、検診時にご使用いただいた様式の赤枠で囲っている二次読影の 「判定」の部分を参考にご記入ください。

様式6　（2枚複写）様式6-1検診機関用 様式6-2市町村用

胃がん検診（内視鏡検診）検診票（兼）結果票

一次読影

所見の部位（悪性疾患の疑いがある病変をすべてご記入下さい。）		所見の種類		病変	生検	図解
□所見なし						
□食道（上部、中部、下部） □食道胃接合部	□ 小弯	□隆起	□陥凹	①	（有・無）	
□穹窿部 □噴門部 □体上部	□ 大弯	□平坦	□白苔	②	（有・無）	
□体中部 □体下部 □胃角部	□ 前壁	□発赤	□褪色	③	（有・無）	
□前庭部 □幽門部 □球部	□ 後壁	□出血	□集中			
□下行脚 □その他（ ）		□変形				
		□その他（ ）		④	（有・無）	

ピロリ菌検査	（0 未実施　1 実施 ）　診断方法および結果 ： 1.　（ 陰性 ・ 陽性 ）　2.　（ 陰性 ・ 陽性 ）
胃がんリスク診断	1 ピロリ菌未感染胃粘膜　2 ピロリ菌現感染または既感染胃粘膜（A.現感染　B.既感染　C. 現感染、既感染かは不明）　1. 2(A.B.C.) のいずれかを必ず記入

内視鏡診断	1 異常なし	2 萎縮性胃炎	3 胃潰瘍（A、 H、 S）
	4 十二指腸潰瘍（A、 H、 S）	5 鳥肌胃炎	6 胃ポリープ（胃底腺、 過形成性）
	7 逆流性食道炎	8 粘膜下腫瘍　（部位 ）	9 術後胃
	10 胃腺腫	11 胃がん（分類 ）	12 食道がん
	13その他（ ）		

判定区分	1 胃がんなし	2 胃がんなし・経過観察または治療が必要	3 胃がん疑い	4 胃がん	5 胃がん以外の悪性病変（疑いも含む）

コメント	方式	1 経口 2 経鼻

胃がん検診中／後の偶発症の有無　1）　なし　2）　あり　※2)あり と回答の場合は別紙 偶発症報告書 に記載し提出して下さい。

検査医療機関および検査医	

※複数の所見がある場合は、所見の部位および所見の種類欄の □に病変番号（①、②、③など）を記載してください。
※生検を実施した場合は、結果を精密検査依頼書兼結果通知書に記載してください。
※生検を実施した場合は、生検結果を二次読影時に添付して下さい。ただし「判定区分」の4. 胃がん5. 胃がん以外の悪性病変（疑いも含む） がでた場合は、速やかにご対応ください。

二次読影

追加病変の部位（悪性疾患の疑いがある場合にご記入ください。）		追加病変の種類		図解
□追加病変なし				
□食道（上部、中部、下部） □食道胃接合部		□隆起	□陥凹	
□穹窿部 □噴門部 □体上部	□ 小弯	□平坦	□白苔	
□体中部 □体下部 □胃角部	□ 大弯	□発赤	□褪色	
□前庭部 □幽門部 □球部	□ 前壁	□出血	□集中	
□下行脚 □その他（ ）	□ 後壁	□変形		
		□その他（ ）		

胃がんリスク診断	1 ピロリ菌未感染胃粘膜　2 ピロリ菌現感染または既感染胃粘膜（A.現感染　B.既感染　C. 現感染、既感染かは不明）　1. 2(A.B.C.) のいずれかを必ず記入

内視鏡診断	1 異常なし	2 萎縮性胃炎	3 胃潰瘍（A、 H、 S）
	4 十二指腸潰瘍（A、 H、 S）	5 鳥肌胃炎	6 胃ポリープ（胃底腺、 過形成性）
	7 逆流性食道炎	8 粘膜下腫瘍　（部位 ）	9 術後胃
	10 胃腺腫	11胃がん（分類 ）	12 食道がん
	13その他（ ）		

判定	0 判定困難	1 胃がんなし	2 胃がんなし・経過観察または治療が必要	3 胃がん疑い	4 胃がん	5 胃がん以外の悪性病変（疑いも含む）
	生検の評価　（□不要 □妥当 □追加が必要）			精密検査の必要性　1 あり　2 なし		
	コメント					

二次読影医	二次読影日　　年　　月　　日　　サイン

※一次読影の所見と異なる場合は、コメント欄に内容を記載してください。　（例） コメント：病変①は胃潰瘍瘢痕ではなく胃がんを疑う。この場合判定は 3. 胃がん疑いとなり、精密検査の必要性は あり となります。
※「0 判定困難」と判定した場合は、「精密検査の必要性：1 あり」とし、画像評価委員会に画像を提出してください。

【≪施設名≫】

【別紙2】

【回答者様へ】ご回答の前に以下を必ずお読みください：

① 令和6年度に実施した（もしくは現在実施中の）検診についてお答えください。

② 回答は〇（実施）か×（未実施）でお答えください。ただし以下の場合は△としてください。

（△：令和6年度に確実な実施予定があるが、回答時点ではまだ実施していない）

③ 貴施設で回答が分からない項目については、必ず関係機関（都道府県・市町村・医師会・外注先検査機関等）に確認してお答えください。

もし自治体や医師会等から予め回答を指定されている場合は、それに従って回答してください。

ただし、★が付いた項目には貴施設が回答してください（検診機関ごとに体制が異なるため）。

		回答欄
1. 対象者への説明		
• 下記の(1)～(6)の項目を記載した資料を、検診機関に来場した対象者全員に、検査を受ける前に個別配布することが必要です（ポスターや問診票など持ち帰れない資料や、口頭説明のみは不可です）。 • 市町村等が対象者への受診勧奨時に資料を配布する場合があります。その場合は、資料内容に下記の(1)～(6)の項目が含まれていることを確認の上、〇と回答してください。		
(1)「要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があること」を説明しましたか		
(2)「精密検査の方法」について説明しましたか （胃内視鏡検査の精密検査としては生検または胃内視鏡検査の再検査を行うこと、及び生検の概要など）		
(3)「精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有すること」を説明しましたか※ ※精密検査結果は、個人の同意がなくても、市町村や検診機関に対して提供できます（個人情報保護法の例外事項として認められています）		
(4) 検診の有効性（胃内視鏡検査による胃がん検診は、死亡率減少効果があること）に加えて、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくてもがん検診の結果が「要精密検査」となる場合もあること（偽陽性）など、がん検診の不利益について説明しましたか		
(5) 検診間隔は2年に1回であり、受診の継続が重要であること、また、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しましたか		
(6) 胃がんがわが国のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか		
2. 問診、胃内視鏡検査の精度管理		
(1) 検診項目は、問診に加え、胃内視鏡検査としましたか	★	
(2) 問診は現在の症状、既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況等を聴取しましたか	★	
(3) 問診記録は少なくとも5年間は保存していますか	★	
(4) 胃内視鏡検査の機器や検査医等の条件は、日本消化器がん検診学会による胃内視鏡検診マニュアル[注1]を参考にし、仕様書※に明記しましたか ※仕様書とは委託元市町村との契約時に提出する書類のことです（仕様書以外でも何らかの形で委託元市町村に報告していれば可です） 貴施設（もしくは医師会等）が仕様書に明記した検査機器・検査医等の条件が学会のマニュアルに準じており、かつ、貴施設が仕様書内容を遵守している場合に〇と回答してください	★	
3. 胃内視鏡画像の読影の精度管理		
(1) 胃内視鏡画像の読影に当たっては、日本消化器がん検診学会による胃内視鏡検診マニュアル[注1]を参考に行いましたか	★	

(2) 胃内視鏡検診運営委員会(仮称)、もしくはそれに相当する組織が設置する読影委員会により、ダブルチェック※を行いましたか ※ダブルチェックとは、内視鏡検査医以外の読影委員会のメンバーが内視鏡画像のチェックを行うことです ただし、専門医※※が複数勤務する医療機関で検診を行う場合には、施設内での相互チェックをダブルチェックの代替方法とすることができます ※※専門医の条件(資格)は下記(3)参照		
(3) 読影委員会のメンバーは、日本消化器がん検診学会認定医もしくは総合認定医、日本消化器内視鏡学会専門医のいずれかの資格を取得していましたか		
(4) 胃内視鏡画像は少なくとも5年間は保存していますか	★	
(5) 胃内視鏡検査による検診結果は少なくとも 5 年間は保存していますか	★	
4. システムとしての精度管理		
(1) 受診者への結果の通知・説明、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内※になされましたか ※市町村を介して受診者に結果を通知する場合は、市町村に遅くとも4週間以内に通知していれば可です	★	
(2) がん検診の結果及びそれに関わる情報※について、市町村や医師会等から求められた項目を全て報告しましたか ※地域保健・健康増進事業報告(注2)に必要な情報を指します	★	
(3) 精密検査方法及び、精密検査(治療)結果※(内視鏡診断や生検結果、内視鏡的治療または外科手術所見と病理組織検査結果など)について、市町村や医師会から求められた項目※※の積極的な把握に努めましたか ※地域保健・健康増進事業報告(注2)に必要な情報を指します ※※本調査では、令和5年度中に依頼された項目について、把握したかどうかを回答してください		
(4) 撮影や読影向上のための検討会や委員会※(自施設以外の胃がん専門家※※を交えた会)を設置していますか。もしくは、市町村や医師会等が設置した検討会や委員会に参加しましたか ※胃内視鏡では、胃内視鏡検診運営委員会(仮称)、もしくはそれに相当する組織を指します ※※貴施設に雇用されていない胃がん検診専門家を指します	★	
(5) 自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しましたか※ ※本調査では令和4年度のプロセス指標値について回答してください 貴施設が単独で算出できない指標値は、自治体等と連携して把握してください。 また自治体等が集計した指標値を後から把握することも可です	★	
(6) プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っていますか	★	
(7) 都道府県の生活習慣病検診等管理指導協議会、市町村、医師会等から指導・助言等があった場合は、それを参考にして改善に努めていますか	★	

注1 日本消化器がん検診学会発行「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル(2017 年発行)」を参照

注2 地域保健・健康増進事業報告:

全国の保健所及び市町村は、毎年 1 回国にがん検診の結果を報告します

この報告書では、受診者数、要精検者数、精検受診者数、発見者数等を性・年齢階級/受診歴別に報告することになっており、 国や地域の保健施策上、大変重要な基礎資料となります

【≪施設名≫】

【別紙3】

従事者名簿（検診の従事者をご記入ください）

	氏名	備考 （該当に☑、登録番号を記入）
検査担当医 （一次読影医）		日本消化器内視鏡学会専門医 □無　　□有 （登録番号　　）
検査担当医 （一次読影医）		日本消化器内視鏡学会専門医 □無　　□有 （登録番号　　）
二次読影医		日本消化器内視鏡学会専門医 □無　　□有 （登録番号　　）
二次読影医		日本消化器内視鏡学会専門医 □無　　□有 （登録番号　　）

連絡先等	
回答者氏名	
TEL	
メールアドレス（担当者様変更後も 連絡可能な組織のアドレス等）	
胃がん検診責任医師	